

AMDA

「経験と知恵助言を」

巨大地震見据え 被災者に提案

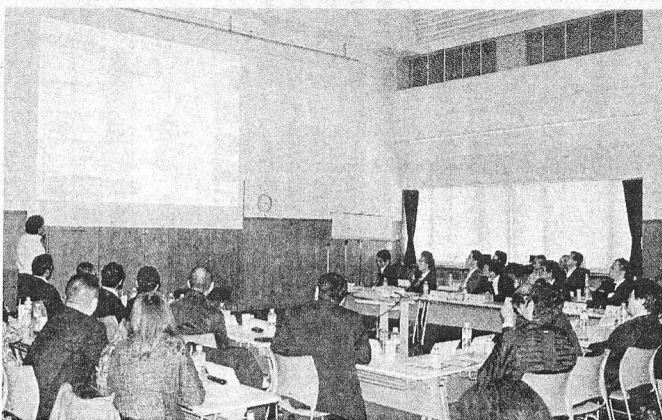
将来発生することが予想される南海トラフ巨大地震について、東日本大震災の被災者らと交えて話し合う「被災地間相互交流公開フォーラム」が1日、北区の岡山国際交流センターであった。主催した国際医療NGO・AMDA（北区）の大政朋子さんらが被災地支援について報告し、今後の災害では、被災者に、避難所運営などについて助言する「避難所コーディネーター」として支援活動に参加することを呼び掛けた。

【平川義之】

東日本大震災の被災地支援を踏まえ、大政さんは「避難所生活がどんなもので、どうすれば良いかは、経験した人でしかわからないことがある。避難所生活で得た知恵を南海トラフ巨大地震が発生し

た場合には力として貸してほしい」と、避難所コーディネーターの役割の重要性を強調した。

宮城県の被災者からは「震災後、行政の機能しない中、最初にやったことは、みんなの



中からリーダーを選ぶなどし、自治会を組織したことだった」とい

った話が出た。

また、大政さんは、大震災の被災地の中で

将来発生が予想される南海トラフ巨大地震を想定したディスカッションなどがあつた「被災地間相互交流公開フォーラム」 一北区の岡山国際交流センターで